

ゆい ちゅうぶ

11 2023
vol.86

沖縄県立中部病院 広報誌
Okinawa Chubu Hospital



救急科 副部長
豊里 尚己

沖縄県救急医療関係功労者 知事表彰受賞

救急科副部長の豊里です。気づけば救急に身をおいて18年。
ありがたいことに今回、県救急医療関係厚労者の知事表彰なるものを賜りました。

あらためて私を救急医として、育て、支えてくれたものに思い馳せています。プライマリケア医を目指す研修医としてスタートした私が研修を終え、配属されたのは本島から遠く離れた人口600人弱の小さな島の診療所でした。そこで私は医師として、ターニングポイントになる出会い経験をしました。その患者は3歳の女の子。先天性疾患を患っていました。その子はいつものように診療所を訪れ、いつものように母親と帰宅するはずでした。

軽い感染症の症状があり、処置をしている間に急変。緊急空輸で本島へ搬送。懸命な処置も虚しく、息を引き取りました。

もっと早く急変に気づけば、もっと早く搬送手配ができれば、あの子の命を助けられたのではないかと、何日も何ヶ月も悔やみ続けました。

寝る間もない過酷な初期研修を乗り切った自信は打ち砕かれ、自身の未熟さ、スキルのなさを実感しました。しかしながら、この経験は私の医師としての道筋を示すきっかけになりました。地域医療を支えるには、救急初期対応のレベル向上が不可欠で、そのためには救急医として研鑽しなくては。

2005年、中部病院救急センターに救急医として配属されてからさまざまな人に出会い、経験を積んできました。素晴らしい医師や看護師、スタッフ、そして理解ある家族に支えられ、今も精進する毎日です。

2023年、9月8日表彰式。頂いた賞状をそっと両手で掲げ、あの小さな島の空に向かって一礼させて頂きました。



頑張っています♥新人看護師!!

pick up! 1年目新人看護師

各部署紹介<看護部>

沖縄県救急医療関係功労者知事表彰

表紙 5月 新人看護研修プログラムを終了して
(集合研修マスク着用で行いました)



pick up!

1年目新人看護師

新人看護師研修を終えて6か月たちました。泣いたり笑ったり、日々の出来事から成長して現在進行形で日々奮闘中!!

6階東病棟

4月に入職して約半年、日々の業務や患者との関わりを通してたくさん経験をしています。

私の所属は感染症・消化器内科病棟で様々な基礎疾患のある患者さんを受け持ち、疾患に関連する症状の観察、看護をたくさん経験することができています。まだまだ未熟な部分がありますがこれからも頑張ります。

穴吹医療大学校卒 **宮良 一慧さん**



6階東病棟

新人看護師として6か月が過ぎた今の気持ちは、日々受け持ち患者も増え、夜勤も入り一層責任感と緊張感をもって看護や業務に取り組んでいます。まだまだ不安も大きいですが、私の病棟では新人教育体制が整っているため、不安なことを一つずつ丁寧に教えてくれる先輩に助けられ、学びの多い毎日を過ごしています。これからも『報・連・相』を意識して自らの行動一つ一つに責任を持ち勤務していきたいです。

山陽学園大学卒 **仲宗根 梨々花さん**



手術室

中部病院に就職し半年がたち、少しずつ現場に慣れてきました。中部病院は手術件数が多く、専門性も高い現場で、はじめの頃は学生の頃と比較してギャップが大きく大変でしたが、優しい先輩の指導の下毎日楽しく仕事できています。これから、外回

浦添看護学校卒 **平良 華蓮さん**、名桜大学卒 **宮城 怜奈さん**

りの業務や経験のない手術、まだまだ覚えることはたくさんありますが、先輩や周りの力や助けを借りつつ日々の業務を頑張っていきます。また、手術に挑む患者さんの不安や思いに寄り添えるように努めています。

救命救急センター

私が成長を感じるの「一人で任される技術」が増えたこと。IV 確保や採血手技は先輩から手ほどきを受けて、できるようになりました。入院も一人で病棟に案内することが出来ます。そして、短い関りで日々の学びを駆使して次に展開に繋がれるようになりました。できていないことは、技術チェックリスト

穴吹医療大学校卒 **藤原 祐輝さん**

で「自立をもらえていない」項目があること。そのため、自立出来るよう積極的に取り組んでいます。また、複数の患者さんを受け持つ場合、優先順位が確立できていないので、救急では根拠に基づいた看護展開ができるように頑張っています。

南2階病棟

就職してから、この半年はあっという間。最初は病棟になれるのに精一杯。右も左も分からないような新人に先輩たちは根気よく向き合ってくれた。看護のこと、業務のこと、ゼロから教えてくれた。最初は出来ることが少なく、覚えることが膨大で、成長できない自分にもどかしさを覚えた。毎日、仕事から帰ってくると疲労困憊、休みの日は疲れを回復させるためにゴロゴロするだけでした。そんな毎日で何よりの励みは、患者さんたちとの関わり小さな援助しか出来ない私に笑顔で「ありがとうね」と言ってくださる。気分ムラがある認知症の患者さんが、ふとした瞬間に穏やかになり、歌い始め、昔話を話される。入院中は気難しい患者さんが、退院の時見せる笑顔を見る

九州大学卒 **照喜名 広海さん**

と、少し患者さんの役にたてたかなあと嬉しくなります。看護に関しての先輩方の指導は、厳しく感じることも少なくありませんが、優しい言葉に励まされ、目の前の患者さんの安全安楽を最優先にして、日々、自分のできることを確実にやり、できることを少しずつ増やしていけるようにしています。



各部署紹介<看護部>

看護部長

皆様こんにちは



今年度、看護部長に就任しました神里と申します。

昨今、医療の現場は、少子高齢化、新型コロナウイルス感染症等の新興感染症発生により、以前に増して複雑、多様化しています。そのような中、看護師には高度な知識と技術が求められ、果たす役割も変化してきています。このような状況においても、私たち看護師は、患者さんご家族の価値観や人生観を大切に、その想いに寄り添いながら、患者さんご家族が自らの力を発揮して回復に向かっていけるような看護の提供に努めています。

今後も患者さんやご家族から「中部病院を選んで良かった」と思ってもらえるように、人材育成・看護の質の向上に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

看護部長 神里 敬子

副看護部長



副看護部長
(左から)

渡慶次 春美
大城 まゆみ
金森 智江

こんにちは

私たち副看護部長は、看護部長方針の基、患者さんが「安心・安全・安楽に療養生活を送ることができる」を目指して、質の高い看護の提供と、職員が「笑顔で楽しく仕事ができる」働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。

質の高い看護の提供の取り組みとして、今年度は認定看護師を中心に「明日からシリーズ」をはじめました。クリティカルケア・認知症ケア・糖尿病看護などの勉強会を開催し、現任教育を継続しています。

また、働きやすい職場環境づくりでは、昨年度よりスタッフへの「ハピネスカード」の取り組みを行っています。カードを贈られたスタッフからは、「嬉しかった」「励みになった」「これからも頑張ります」の声が聞かれます。

みなさんご協力の基、これからもすべての患者さま、職員を支援できる看護部を目指していきたいと思います。

嬉しい!
(^^)!

